

日本 PTA 研究発表大会 広島大会
参加感想文

大阪府 PTA 協議会 副会長
門真市 PTA 協議会 会長
本田 貴裕

2023 年 8 月 25 日(金)、26 日(土)、広島県で開催されました、日本 PTA 研究発表大会へ参加してまいりました。

1 日目は、リーガロイヤルホテル広島で開催された、特別分科会 1 に吉原さん、川野さん、安田さん、北山さんと共に参加してまいりました。

2 日目は広島グリーンアリーナにて行われた、全体会に参加しました。

開会式から、歓迎アトラクションでは、広島ジュニアマリンバアンサンブルの演奏、記念講演は、トリセツシリーズの書籍で有名な黒川伊保子先生のお話を聞きました。

今回のテーマは、「心のトリセツ～逃げ癖を意欲に変える脳科学」がテーマでしたが、今日からでも使える脳の仕組みを学ぶ事が出来ました。

二日間を通して、府 P 協議会メンバーとも懇親を深める事が出来、また、分科会や全体会を通して PTA 活動の必要性、意義を深める事が出来て、大変有意義な時間を過ごす事が出来ました。

以下、参加した分科会と全体会のまとめも合わせて送ります、参考にご覧ください。

1 日目
特別分科会 1

● JICA 村岡所長

いつか世界を変える力になる！ 求む！ 好奇心！
をテーマに講演いただき、ご自身の体験から、物事を動かす人材を見つける、育てるという視点を話されていました。

育てるコツは、
・やる気のある人を見つける事。

- ・もっと何かできる？を深く考える事。
- ・より広い関係者とのコミュニケーション、活用する事。
- ・知恵、工夫をする事。

まず、やってみる事が大事、上手くいけばやり続け、ダメなら改善すれば良いだけ。
より広く捉えるために、大きな視点で改善する事が大事。
誰を動かすか？関係者に働きかける事も大事。

目標を実現させるには、

- ・信頼醸成
 - ・対話
 - ・関係者は誰かを明確にする
- 事が大事です。

まとめとして、

- ・知る力、聞く力
- ・提案する力、実行する力

を身に付け、やってみないと分からないし、得られるものは無いと思って、取り組んで下さい。

●AICWC 熊谷校長

第1期生を発足した、国際バカロレアの校長先生
国際バカロレアについての参考サイト

→ <https://ibconsortium.mext.go.jp/about-ib/>

大会要項、P58 に参考資料も添付されています。

最近の教育現場

海外の教育プログラムが導入されているところも増えている。

ダボス会議 2020 で挙げた、教育の課題を克服していく事が命題。

本校では、GRASPS という、マーケティングのフレームを使って考えるようにしている。

- ・ GOAL(目標):何を目標に行動しているか。
- ・ ROLE(役割):どんな役割がありタスクがあるか。

- ・ AUDIENCE(傍聴人):対象としている傍聴人は誰か。
- ・ SITUATION(状況):どのような環境、シナリオ、挑戦をしているか。
- ・ PERFORMANCE(行動):何を創り、発展させたか。
- ・ STANDARDS(基準):期待されるものは何か。どの基準で審査員されるか。

参考サイト

→ <https://swiss-ryugaku.com/lagarenne-202003GRASPS>

チノメザメというサイトを生徒と一緒に運営しているので、参考に見てほしい。

→ <https://knowledge-caravan.com>

● パネルディスカッション

P54 討議の視点にする。

- ・世界で活躍する人材とは
- ・世界で活躍するため、子供たちに必要な力とは

世界で活躍、日本で活躍にあまり差がなくなっている中、知る力、聞く力、提案する力を持っている事は世界で活躍するために必要。

人間性をどう育むのかが、教育上テーマになる。

世界で活躍するが、そもそも常識なのか？

先の予測が難しい時代、その時に必要な力は、生涯学び続ける、自ら考え、学び、解決する力が
必要

PTAとして

- ・多文化共生に不安、課題がある
- ・地域のイベントで、世界を知るきっかけにする
- ・学校と家庭と地域でやっていく教育は違うが、それぞれの教育を学ぶ機会はない
- ・PTAの本質は、大人の学び合う場所
- ・教育基本法の目的は、「人格の完成」を目指す事

当たり前が担保されているのは、過去の先人の積み重ね。

→例として、教科書、給食は、PTAが声があがって、実現されてきた。

2日目

● 記念公演

心のトリセツ 逃げ癖を意欲に変える脳科学

黒川伊保子

脳にある人類の秘密を話していく。

為末大

まず「遊」より始めよ

- ・何ごとも「好奇心の赴くまま」が大事で、脳には良い。
- ・型と合理的な指導なら、優秀、一流までは、手取り早く辿り着く。
- ・そのあとの超一流、その人らしく伸びやかに活躍するのにスランプが長かったり、逃げ出す事も多い。
- ・脳と骨の使い方は一般論であって、一人一人違うので、最後は自分と向き合い微調整が必要になる。
- ・脳の信号は個性があり、理想の形から成長させる必要がある。
- ・遊びから入った人の脳には、自分と対象を繋ぐ情報がたくさんあり、よくできた型の人には無い。
- ・20世紀は創造力より実行力が必要だったが、21世紀はAIが実行してくれるので、人間が向き合うのは創造力が必要になってきた。

益子直美

監督が怒ってはいけない大会

- ・結果や責任で追い詰めていくと、余計な事を考えず、がむしゃらに突き進む脳神経回路が活性化するが、発想力、対話力、長期の戦略力の回路を阻害する。
- ・がむしゃらの実行力が必要だったが、シンプルな生活環境だった中から、21世紀には、発想力、対話力、長期の戦略力が求められる。

怒る、叱る時代は終わった。

- ・挑戦して失敗した事については怒らない。→慶應の野球部監督

人工知能が優秀な成果を出す時代

- ・人間の仕事は、命題を探し出す事、AIコミュニケーションに集約されてくる。
- ・必要なのは、AIに発想力と対話力、引き出す質問力が大事になる。

人生が思い通りになる対話術

・とっさの思考回路には、2種類ある。

1 問題が起きた時、事のいきさつを反芻(はんすう)して、気づきを起こそうとする人
→そういえば…と過去の記憶から

2 今できることに意識を集中して、さっさと動き出す人
→今日の前の事を把握して、今できる事に集中する。

思考回路は優先側があり、立場によって切り替わる。

この二つの思考回路が対立すると、コミュニケーションが上手くいかない。

1 ことのいきさつ派

共感型 思いを語る

過去、未来に繋がる

→感情的になる入力信号が必要

→感情に導かれて記憶を再体験、新たな気づき

→共感してあげる事で、記憶の再現速度が上がる。

→欲しいのは、共感とねぎらい

2 今できること派

問題解決型

→結論を急ぐ

→一刻も早く問題を取り除きたい

→したいのは、問題点の指摘

・コミュニケーションストレスの正体

→とっさの脳の使い方の異なる二者間で起こるミゾ

→共感型は、相手には思いやりの足りなさ、ひいては人間性の欠如を感じる

→問題解決型は、相手には客観性の足りなさ、ひいては知性の欠如

・対話の奥義

→人の話は共感で聞く

→自分の話は結論から話す。

→分かってくれる余裕があるのが大事。

・とにかく、いいねか分かるで受ける

→ポジティブ提案系

いいね！わかるよ！

→ネガティブ相談系

痛かったらうね、それは辛いね

・心の通信線と事実の通信線の2本ある。

・いきなりのダメ、無理は、自己肯定感を下げたしまう

→「あなたはダメ」というように聞こえる。

→暗黙の主語は「世間」

→タスクへのダメ出しなのに、相手の人格否定に聞こえる(自己肯定感を下げたしまう)

→英語は主語を省略が出来ないから、自己肯定感が低くなりにくい。

・心理的安全性

→Googleの社内調査で、効果の出せるチームは、心理的安全性が確保されている

→なんでもない、ちょっとした気付きを喋れる安心感

→頭ごなしの対話は、相手の発想力と自己肯定感を阻害する

・無理な仕事を断るときも、できる事から言う。

まとめ

・共感型の脳は、できない事情が浮かぶ。

・問題解決型の脳は、今できる事が浮かぶ。

人のとっさの動作に4種類

驚いた時

1 跳び上がる人

2 肩を上げて固まる人

→指先タイプ

3 身構えて固まる人

4 後ろにのけぞる人

→手のひらタイプ

・失敗は恐れない

→失敗を未然に防ぐと、脳はセンスが悪くなる。

→脳は寝ている間に回路を書き換えるので、失敗してもいつまでもクヨクヨしない、切り替えが大事。

・失敗三ヶ条

→失敗は他人のせいにしてしない

→過去の失敗をくよくよ思い出さない(口から出さない)

→未来の失敗をぐずぐず言わない

・失敗した人にかける言葉

→私も●●してあげれば良かった

以上です。